

## 【儲かる農業の実現に向けた県南地域の取組方針 数値目標に対する令和6年度の進捗状況一覧】

### 1. 大規模水稻経営体の育成

指標名		R5年度 実績	R6年度 目標	R6年度 実績	R7年度 目標	評価と今後の対応	
大規模水稻 経営体数	100ha以上 ※100ha未満でも粗収益 1億円以上の経営体を含む。	12経営体	14経営体	16経営体	16経営体	○	経営体別の技術・経営支援や農地集積・集約の話し合いを支援した結果、大規模水稻経営体は目標以上に増加した。 今後も、農地集積・集約へ向けた取組や省力化のための技術的な支援等を続け、経営感覚に優れた大規模水稻経営体のさらなる育成を図っていく。
	50～100ha	37経営体	38経営体	38経営体	41経営体	○	
スマート農業機械導入経営体数		127経営体	135経営体	158経営体	166経営体	○	ドローン、自動抑草ロボット、収量コンバインの技術実証や現地検討会開催、営農管理支援システムの導入支援等により、スマート農業機械導入経営体数が大幅に増加した。 今後も、技術実証や補助事業の活用等により導入を推進していく。
メガファーム 事業体の 集積面積及び 米生産費 (60kg当たり) の削減率	集積面積	104ha	R5 実績以上	116ha	R6 実績以上	○	龍ヶ崎市東部地区の事業対象経営体がメガファーム（経営面積100ha）となった。 R7年産作付けに向け、関係機関で農地の情報を共有する等し、更なる集積を推進する。
	米生産費	9.1%減	15%減	0.9%増	20%減	×	周辺耕作者等との農地交換により、集約が進み作業が効率化したが、肥料費及び農薬費の高騰により米生産費がやや増加した（R3年：10,548円/60kg→R5年：10,640円/60kg、0.9%増加）。 今後、生産コスト増加要因の解明と対策、さらなる集約を進めるなどして、米生産費の削減を図っていく。
特A評価の継続獲得		A	特A	A	特A	×	実証圃を設置し、晚植えや生育診断、出荷まで適期作業を指導した。管内の良食味米産地の米を加え食味官能審査を実施し食味ランキング出品米を決定した。その結果、R6年産米の評価は前年と同じ「A」評価であった。 引き続き、良食味米の技術指導を徹底し、「特A」の評価獲得を目指す。

※評価について【○：目標達成、△：未達成（目標の9割以上を達成）、×：未達成（目標の9割以下の達成に留まった）】

## 2. 日本一れんこん産地における持続可能な儲かる農業の展開

指標名	R5年度 実績	R6年度 目標	R6年度 実績	R7年度 目標	評価と今後の対応	
販売金額1億円以上の経営体数	3 経営体 ※実績修正	5 経営体	4 経営体	5 経営体	×	目標は達成できなかったが、収量低下の原因となっている病害虫や鳥害の対策技術について効果の検証を行ったほか、加工品開発など有利販売に向けた取組を支援することができた。 今後も、病害虫や鳥害の対策、省力化技術（スマート農機）の活用について支援し、さらなる販売金額の増加を図っていく。
黒皮症被害程度指数	17.9	12.6	17.8	11.6	×	目標は達成できなかったが、生産者への黒皮症に係る情報提供、センチュウ検査の実施及び防除対策、健全な種バグの使用等について指導した結果、被害の拡大防止につながった。 今後も、健全な種苗生産や休作、夏季の石灰窒素散布等のセンチュウ低減技術等に関する情報提供を行い、関係機関と連携し被害の防止・低減を図っていく。
スマート農機等の導入の経営体数	11経営体	12経営体	12経営体	12経営体	○	自動給水栓を中心に12経営体で、スマート農機が導入された。 今後も、ドローン等のスマート農機の導入に向けて、導入にあたっての課題を検討するなど、スマート農機の導入を支援していく。
10aあたりの投入施肥窒素量	23.1kg	24.0kg 以下	18.5kg	24.0kg 以下	○	土浦市、かすみがうら市における施肥窒素量が18.5kg/10aとなり、目標の24.0kg/10a以下を達成できた。 今後も、JAと連携し、適正施肥技術を指導・周知するなどし、継続して目標達成を図っていく。

※評価について【○：目標達成、△：未達成（目標の9割以上を達成）、×：未達成（目標の9割以下の達成に留まった）】

### 3. 地域農業を牽引する儲かる園芸経営体の育成

指標名			R5年度 実績	R6年度 目標	R6年度 実績	R7年度 目標	評価と今後の対応	
販売金額 1億円 経営体の 育成	かんしょ	集積 面積	14.5ha	17ha	15.8ha	20ha	△	目標は達成できなかったが、生分解性マルチの利用等、労力軽減技術の導入を支援することで、ばれいしょ等の面積が拡大し、販売金額が向上した。今後は輪作体系等を検討していくことにより、更なる生産性向上支援を行う。
	グラジオラス	採花率	55%	65%	60%	73%	△	目標は達成できなかったが、全国的な球根の供給不足により、市場の需要に対して切り花の供給量が少なく、販売単価が向上することで販売金額が向上した。今後も高温・乾燥対策として、かん水の効果的な使用方法を検討するなどし、採花率の向上等の支援を行う。
	みつば	面積	0.81ha	0.92ha	0.94ha	0.94ha	○	ハウス内環境を考慮した適切な栽培管理を支援したところ、病害の発生は最小限に抑えられ、出荷量が増加することで販売金額は向上した。今後もハウス内環境データに基づく栽培支援を行う。
	こまつな	面積	2.5ha	2.5ha	3.1ha	3.1ha	○	面積拡大に伴う経営支援やJGAPの取得支援等を行うことで、販路拡大につながり販売金額が向上した。今後も更なる栽培面積の拡大に繋がるよう、経営拡大支援や栽培技術支援を行う。
販売金額目標達成経営体数の割合 ※経営体育成支援活動の対象経営体別 短期計画における、年度ごとの販売 金額目標を達成した経営体数が対象			53% (10/19)	100% (17/17)	76% (13/17)	100% (16/16)	×	経営体育成指導活動対象のうち、園芸品目を栽培する17経営体に対し、目標設定と課題の整理を行い、対象者と共有し、スマート農業技術の導入を含め、経営改善・向上を支援した結果、全体の目標（100%）は達成できなかつたが、13経営体（76%）が目標を達成し、14経営体（82%）が前年度（R5）の販売金額に対して向上した。今後も各経営体の課題に対し、必要な支援を行い。販売額の向上を図り、目標の達成を目指していく。

※評価について【○：目標達成、△：未達成（目標の9割以上を達成）、×：未達成（目標の9割以下の達成に留まった）】

#### 4. 水田の有効活用の推進

指標名	R5年度 実績	R6年度 目標	R6年度 実績	R7年度 目標		評価と今後の対応
水田高収益作物の導入面積	1,723ha	1,749ha	1,834ha	1,859ha	○	地域農業再生協議会やJAと連携した導入希望者の掘り起こしや生産者に向けた技術等の支援、畑地化促進事業を活用した高収益作物の導入が進んだことにより、目標を上回ることができた。 今後も、地域農業再生協議会やJAと連携した生産者向け説明会や現地検討会を開催し、経営所得安定対策事業、水田畑地化事業の活用や規模拡大支援、基盤整備や企業参入等を契機とした高収益作物の導入等を推進していく。
新規需要米の導入面積	6,029ha	6,000ha	4,968ha	— ※1	×	主食用米の価格高騰で、新規需要米出荷予定量の一部が主食用米出荷に動いた影響や、飼料用米（一般品種）の支援水準の段階的な引き下げに伴う作付意欲の低下等により、目標を下回った。 米価の安定を図るためにも、引き続き、市町村及び地域農業再生協議会と連携し、新規需要米等の需要の見込まれる品目の作付面積の維持拡大に向け支援を行う。

※1 主食用米の需要量が、民間在庫の減少により価格が高騰し、先が見通せない状況となっていることから、R7年度は目標の設定を見送る。

※評価について【○：目標達成、△：未達成（目標の9割以上を達成）、×：未達成：（（目標の9割以下の達成に留まった）】

#### 5. 常陸牛の生産拡大

指標名	R5年度 実績	R6年度 目標	R6年度 実績	R7年度 目標		評価と今後の対応
子牛登記頭数の拡大	1,051頭	1,040頭	892頭	920頭	×	県事業においてゲノム評価を活用した能力の高い繁殖雌牛の保留支援を行ったが、離農や飼料の高騰などを受け、繁殖雌牛の増頭ができなかったことから、子牛登記頭数が減少した。 今後も引き続き能力の高い繁殖雌牛の保留について支援を行うとともに、肉用牛経営の担い手確保、育成のために必要な支援を行っていく。

※評価について【○：目標達成、△：未達成（目標の9割以上を達成）、×：未達成（目標の9割以下の達成に留まった）】